

マダニが媒介する感染症

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に注意！

マダニが媒介する感染症「重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome：SFTS）」の症例が、国内でこれまでに5例報告されています。

春から秋にかけてマダニの活動が盛んになることから、森林、草むら、藪などに入る場合には十分注意してください。

重症熱性血小板減少症候群とは？

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、SFTSウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染する病気です。

潜伏期間はマダニに咬まれてから6日から2週間です。主な症状は発熱と消化器症状（食欲低下、嘔吐、下痢等）で、重症化し、死亡することもあります。

感染しないための予防対策は？

マダニに咬まれないことが重要です。春から秋は特にマダニの活動が活発です。作業やレジャーなどで、草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る時は、次のことに注意してください。

- 肌を出来るだけ出さないよう、長袖、長ズボン、手袋、足を完全に覆う靴等を着用する
- 肌が出る部分には、人用防虫スプレーを噴霧する。
- 地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたりしないよう、敷物を敷く。
- 帰宅後は、すぐに入浴し体を良く洗って、服を着替える。
- マダニに咬まれた時は、つぶしたり無理に引き抜こうとせず、できるだけ医療機関で処理してもらう。

※ マダニに咬まれることにかかる感染症には、他にも、日本紅斑熱やつつが虫病などがあります。野山などに出かけた後、発熱などの症状が出た場合は、速やかに医療機関を受診してください。

※ マダニは、通常、家庭内に生息するダニ（食器等に発生するコナダニや衣類や寝具に発生するヒョウダニ）とは種類が異なります。

マダニに咬まれたらどうすればいいのか？

屋外活動後はダニに咬まれていないか確認することも大事です。

マダニ類の多くは、ヒトや動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から、長いもので10日間）吸血します。無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるので、吸血中のマダニに気が付いた際は、できるだけ医療機関で処置してください。また、マダニに咬まれた後に、発熱、食欲低下、嘔吐等の症状があった場合には、早めに医療機関を受診してください。

参考（国内での発生状況）

- ・1月30日（国内初症例） (1) 山口県（成人女性1名：昨秋に死亡。最近の海外渡航歴なし）
- ・2月13日（追加症例） (2) 愛媛県（成人男性1名：昨秋に死亡。最近の海外渡航歴なし）
- (3) 宮崎県（成人男性1名：昨秋に死亡。最近の海外渡航歴なし）
- ・2月19日（追加症例） (4) 広島県（成人男性1名：昨夏に死亡。国内感染疑い）
- ・2月26日（追加症例） (5) 長崎県（60代男性1名：平成17年秋に死亡。国内感染疑い）